

玉野市立学校適正規模化地域説明会（八浜中学校区） 会議録（要旨）

- 日 時 令和4年8月31日（水）19:00～20:40
- 場 所 八浜公民館
- 出席者 妹尾教育長、小崎次長、山内教育総務課長、的場学校教育課長
- 参加者 23名（地域14 保護者9）

1 開会

教育長あいさつ

2 説明

教育総務課長説明

3 意見交換

参加者1： 教員を三十数年間してきて、この適正規模という言葉に凄く疑問がある。大規模校で1クラスが40人よりも、小さい学校で一人ひとりに目をかけた方が上がっていったと思っている。

文科省も、適正規模で教育的効果が上がるとはおそらく言っていない。便宜上というか、予算を出すための言い方と理解している。教育委員会は、本当に子どもたちのことを考えてこれが適正規模と思っているか。

教総課長：何が適正なのか、明確に線が引けるものではないと思う。子どもたちのために、どのくらいの規模にしていくべきかは、検討委員会の中でも協議いただきたいところだが、教育委員会のスタンスとしては、クラス替えができる程度の規模が望ましいと考えている。

参加者1：それはなぜか。クラス替えがないといけないのか。

教総課長：いけないということではなくて、小規模校のデメリットとして人間関係が固定化するというものがあつた。これは傾向としてあると思うが、クラス替えによって環境が変わるといったことができればという思いが一つある。

学教課長：小学校から中学校まで1学年1クラスで行ったとして、この9年間の中で人間関係は変化する。人間関係が上手く行かなくなったとき、例えばクラス替えがあれば、リセットして新しい環境で友だちを作るということが可能で、環境を変えらるということを見ると、2クラス以上ある方が良いのかなと思う。実際に学校現場の話聞いていて、そのような状況があるということだ。

また、少人数の方が教育効果が高かったとのことだが、これからは、社会に出ていろいろな人と関わる中で、いろいろな力を身につけないといけない。そういう中で、多様な人との関わりの中で、いろいろな考え方を学ぶという、協働的な学習というものを教育として進めている。

参加者2：（大崎小の子が）八浜小学校に行ったら2クラスになるか。

教総課長：令和14年に（八浜小と大崎小を）統合した場合、2クラスにはならない想定だ。

参加者2：それだと、いまの説明とは違うと思うがどうか。

教総課長：クラス替えのある規模が理想としてはあるが、当面の複式学級の解消を目的とする場合はこうなるということだ。複式化するくらいに小規模化が進むと、デメリットがより強調される状況になると思うので、それは解消したいと考えている。

参加者3：小規模の場合、一人ひとりに目が向けられるとあったので、それは凄く良いことだと思う。なぜなら、一人ひとり違うからだ。

いま世の中でもSDGsで多様性を重要視していると思う。文科省もSociety 5.0では、そういうものを大事にしたいと言っている。いま、平成27年に策定された資料を元に話があったが、それからは時代が変わってきているのではないか。今の時代に合わせて一人ひとりの多様性を大事にしたいとなれば、小規模にも良いことがたくさんあると思う。

大規模だと萎縮して全然力を発揮できない子もいるので、もしそういう大規模の小学校区に通うのであれば、指定校変更で小規模の学校に通わせてはどうか。いじめに関しても、いじめほどではなくても、どうも行きづらいと思うのであれば、保護者の負担にはなるが学校を変える手もあると思う。

教総課長：小規模校のメリットはもちろん我々も理解していて、小規模も大規模も、それぞれにメリットデメリットがあると思う。小規模校は小規模校のメリットを最大限に生かしていけるような運営をしていかないといけないと思う。

参加者4：小学校に3名、中学校に1名通っている。大崎小は1学年20名を切るくらいの人数だが、子どものことをとてもきめ細かく見てくれていて、小規模校のメリットの方をとても大きく感じている。

2クラスあればクラス替えができるメリットはあると思う。アンケートで何学級が望ましいかと聞かれれば、やはり1学級よりは2学級、2学級よりは3学級あったほうが良いとは思いますが、それよりも何よりも、1クラスの人数が多くて先生が目が行き届かないとか、どんどん埋もれてしまう方が心配で、学級の数こそが適正であってほしいと思う。できるなら2クラスで20人ずつなどが理想で、いい教育になると思うので、そのあたりに目を向けてほしい。

参加者3：教育に携わる人が少なくなっているという話をよく耳にする。その原因が先生にいろいろなものを求め過ぎていることであって、そのように負担がかかる仕事は嫌だといって教員に就こうとは思わない人が多いのだと思う。

今であればダンスやクロームブックの勉強もしないといけない、それにプラスして子ども一人ひとりに対してのこと、学校の行事、いろんなことが必要になってくる。そのときに、例えば35人のクラスを持っている先生と、大崎小学校の私の子の学年は13人。すごく少ないが、でもそのぶん先生は他のことができる。テストの添削でも素早く終わって、どう教育していくかを考える時間ができる。

少しでも負担がなくなれば新しい教員が増えて、そうできれば先生たちも負担が少なくなっていくと思う。

参加者4：私の子も大崎小学校に通っていて、1週間くらい学校に行けなくなったことがあった。クラス替えがあれば児童も変わってとのことだったが、そのときは先生が凄く熱心に対応してくれて、人数が少ないぶん保護者同士のつながりもあって、私と保護者が直接やり取りできるメリットもあった。クラス替えがあるから適正規模と

いうのはやはりどうかと思う。

アンケートをもらったが、保護者たちが知る機会はこのアンケートだけか。あのアンケートだと、ただ1学年何クラスが良いかと聞かれているだけのような感じで、適正規模化によってどうなるかまったく実情が見えない。このことを知らない保護者や先生もたくさんいると思うがどうか。

教総課長：アンケートと、加えて今日のような場にお越しいただければと考えていた。アンケートの中でも地域説明会を案内していたが、周知が足りないのご指摘いただいているところだ。(説明について) 今後どうしていくかはこれから考えたい。

参加者5：アンケートの中身についてはどうか。中身について質問されていた。あのアンケートの中身で適正かと。

教総課長：あまり難しいことを聞いても答えにくいと思うので、比較的簡単に答えられる設問と、ご意見は自由筆記で書けるように配慮したつもりだ。

参加者6：私もあのアンケートを見て、何を目的に取っているのかと思った。何学級が良いかと言うが、1学級の大崎は選びようがない。2学級が良いと言ったら大崎に子どもを増やしてくれるのか。ありえない。そうすると統廃合の道だと思う。はっきりと、これは統廃合を進めるためのアンケートですと書けばいいと思う。

3回目の説明会の後、追加アンケートが出た。そこではこの取り組みについて、賛成か反対かを聞いている。記述で書くことはできたが、それまでにはなかった。その追加アンケートを出した理由は何か。

また、すでに説明会が終わった地域はあのアンケートをどうするのか、教職員にはどうするのか。

それから、鉾立の説明会に申し込んだが、定員オーバーで入れなかった。1回行っているからいいじゃないかと言われればそうかもしれないが、鉾立の方も参加できなかった。本当にすべての地域の人、保護者の方たちによく考えてアンケートに答えてほしいと思っているのか疑問に思うがどうか。

それから、アンケートの集計には地域差が出ると思う。大崎の人たちと、統合した場合に八浜だったら大崎がやってくるわけだから、その八浜の人とはちょっと違うのではないかと思う。そのへんの地域差はどのように集計するか。

それから、児童生徒にはどのようなアンケートをするか。子どもたちは表面的なことで答えてしまうと思うので、注意しながらでないと思う。

教総課長：まず追加アンケートの経緯、これは1回目の検討委員会で委員長からアドバイスをいただいた。玉野市のみなさんがどういう教育を求めているのか、なども聞くべきではないかというアドバイスがあり、予定していたものを変えるのではなく、追加で、どういった教育を求めているか、あと適正規模化について賛成なのか反対なのかも合わせて実施している。

この追加アンケートはホームページ上で公開していて、そこから回答できる。これまでの開催地区の方には、そこから回答をいただけるように、ホームページなどで案内したい。

保護者のみなさんには、2学期に入ってから児童生徒を通じて配布したい。教職員のみなさんにも、同じタイミングで案内したいと考えている。

集計については、アンケートの項目に児童生徒が通う学校か、お住いの小学校区

を聞く設問があるので、大崎小学校であれば大崎小学校だけで集計をするような個別の集計で傾向を見ることもできる。全体の割合だけではなく、多角的に見ていく、そういう集計する必要があると思っている。

子ども向けのアンケートは手元に資料がなく、すみません、すぐに出てこない。

参加者6：今の学校は楽しいかとか、そういうことを子どもたちにはぜひ聞いてほしい。

アンケートは何のためにしているかだ。説明もないままにアンケートに答えているので、非常に答えにくいと思う。説明会に参加している人はいいかもしれないが、そういう人は少ない。地域の人はおおさらだ。アンケートを市民センターに置いていてもしない。

検討委員会の委員に地域の代表がいるが、これはコミュニティの代表か。コミュニティの代表が地域の代表と言えるのか。たった一人だ。地域は広い。いろんな地域があるので、そこから出ないと地域の代表とは言えないのではないか。コミュニティの代表は地域の代表を集めて、検討して、代表で意見を言うのか。地域の代表が入っているからみんなの意見聞いているというのは、ちょっと違うと思う。これは意見だ。

参加者5：来年8月に検討委員会が具体案を決めたら、もう私たちは何も言えなくなるのかと、検討委員会というものに対してすごく私は怖い。

大事なことを決めるのであれば、検討委員会の人にもっと保護者や地域、教員、子どもたちの意見を聞いて知ってもらわなければいけないと思う。

この地域説明会にしても、これでも大崎八浜の人で来ていない人は大勢いる。こんな時間を開いて、低学年や小さい子どもを持つ親は出られないと嫁が言っていた。本当に保護者の意見や地域の意見が聞きたいのであれば、もうちょっと場所を工夫してほしい。

私は、親たちの意見をもっと反映させるべきだと思い、小学校の教頭先生たちにメール配信をしてくれと言ったら断られた学校があった。なぜ断るかわからないが、予想としては教育委員会がダメだと言っているのではないか。来年8月に具体案が決まるまでに検討委員会の人にいろいろな意見を伝えなければならないのなら、各校を回って説明してほしい。保護者にこのプリントを渡しているとのことだったが、何が分かり、分かるかもしれないが保護者のどんな意見がみなさんに伝わるのか。こうやって話し合わないと、保護者の真意や願い、気持ちが伝わらないと思う。

それから教員は蚊帳の外だ。何も知らない。教員に聞いてほしい。先ほど少人数のデメリットを挙げていたが、私も40年近く教員をしてきたが、胸上小学校の時に、よく鉾立小学校の子どもたちと一緒に海事研修や社会科見学に行ったが、そのとき5人だった鉾立小学校の子は、人数の多い学校と比べても全然劣っていなかった。先生方は鍛えるべきところを鍛えて、子どもたちも堂々としていた。だから、少人数だから社会に出て通用しないとか、教員からすれば、それはまったく、素人が外で言っているとしか思えない。そういう話をされたらちょっと困る。だから教員の本音の話も聞いてほしい。ただ私は中学校の様子はわからない。でも小学校は少人数がダメということはまずありえない。そこも先生方の意見をもっと聞いて、それを検討委員会に伝えてほしい。検討委員会が好き嫌いで「2クラスの方がいいですよ」みたいな考えだけ聞いて決められたのでは困る。だから検討委員会にみ

んなの意見を伝える工夫をしてほしい。

長らくコミュニティと学校が結びつかなければいけないと、私たちは頑張ってきた。だから老人会が畑の手伝いをしてくれたり、縄のないかたを教えてくれたり、保護者がミシンを教えてくれたり、コミュニティと学校はがっちり組んでやっている。その地域から学校がなくなると、コミュニティが壊れてしまうのではないか。私は奥玉小出身だが、奥玉小がなくなってから、一つ一つと店がなくなった。奥玉の町がなくなった。そんなふうになるのではないか。

小さな未来のある子どもたちを、人口減少の問題解決の犠牲にしないでほしい。人口減少で困っているのなら、大人が知恵を合わせて乗り越えるべきで、プールがたくさんあるとお金がかかるから学校を少なくしましょうと、子どもを犠牲にするのは本当におかしいというか、それはもう玉野の恥だと思う。

前の説明会でも言ったが、この場に教育委員会の先生がいることが不満だ。ここには市の少子化対策の担当者とかが来て、玉野の少子化対策、人口問題対策といった大きなくくりとして考えてほしい。それが子どもの教育だけにし寄せが来ているようにしか思えなくてとても残念だ。保育園がどんどん無くなって、子どもを安心して育てられないようなまちになると、人口が増えていく未来予想図が立たない。本当に玉野市は人口を増やそうと思っているのか。私はニュータウンに住んでいるが、若い人たちが2軒も空き家に入った。でも、玉原小がなくなって、子どもたちがあの長い坂を下りて玉小まで行かないといけないと聞いたら、何年後かにはいなくなるのではと不安だ。子どもを安心して育てられるまちづくりということで、教育委員会だけではなく、玉野市みんなが手を組んで、大人たちが考えていかなければいけない。子どもを少子化問題の犠牲にしてはいけないと思う。

それと、検討委員会にみんなの意見を反映させてもらえる工夫をしてほしい。

参加者7：私もアンケートが大きな意味を持つと思っている。しっかりと説明をしてもらって、学習をして、話し合ったうえで回答するのと、ただ配られて思い付きで回答するのでは、全然違うと思う。この統廃合問題は、玉野市の今後を決める重大な決断だと思う。だから安易に回答するのではなくて、学習して、話し合って、議論の末、意見を聞いてもらいたい。

私は7月13日の検討委員会を傍聴した。議論の最後の方で、こんなアンケートをしますと出されて、あまり深く議論をしていないと思う。ただ一つ、締切日について意見が出て、10月7日に締切が延びた。良かったと思うが内容まで議論していない。もし委員長のアドバイスを参考に追加のアンケートをするのであれば、あの場で検討すればよかったと思う。あるいは、急いで配らずに、最初のアンケートは7月、2回目のアンケートは何の説明もなく、頭書もなく8月だ。そんなことをしないで、まとめて1回でしておけば良いのだが、ちょっと残念だ。もしかして更に良い意見が出て、更に追加されるようなことはないですね？

大勢の人が議論の末にアンケートを答えるように、何とか努力をお願いします。

参加者3：八浜小学校に通えば八浜小学校の歴史を中心に学ぶかもしれないが、大崎小学校は結構ないがしろになってしまうのではないか。大崎で生まれ育った子どもたちが、自分の地域について学ぶ場もなく、大人になってそういう歴史があったのかとなると、それは小学校に通った意味〇〇。小学校や中学校は義務教育の場であり、その地域

地域に密着した良さを引き出した小学校であるべきと思う。

人数が少なくなったからそこを纏めようというのは、文科省が言っていたとしても、玉野市は一人ひとりに密着した教育をすることとして、これは子どもの将来のための投資なんだと謳えば、玉野市の価値が凄く上がるのではないか。

参加者 8：今回の説明会について、上の子の保育園のラインからはあったが、下の子はまだ2歳でそこからは全然情報がない。統廃合で困るのは2歳以下の子たちだと思う。幼児クラブや児童館で説明会を行うなど、この統廃合についてどの程度周知しているか。

教総課長：幼稚園の保護者には、アンケートを通じてではあるがお知らせしている。保育園、認定こども園は、こちらのミスでまだアンケートを送れておらず、早めに送りたい。個別の案内まではできていない。

参加者 8：幼稚園は3歳以上で、2歳以下が困ると思うがどうか。

教総課長：保育園と認定こども園に通われているお子さんについては、まだ（アンケートの配布が）できていないので、来週中には案内したい。

参加者 8：保育園に通っていない子は分からないまま、情報が入って来ないまま統廃合ということになる。

教総課長：説明会については、広報たまのに掲載しているが、そこにとどまっているかとは思ふ。

参加者 9：進め方があまりにも急ぎすぎと感じる。いま言われたように、統廃合が進んで学校がなくなった時の子どもたちの声が聞こえてこないまま、なされると感じる。もう少し時間があれば、こんな話があるよという、人から人への広がり生まれてくると思う。あまりにも時間が足りないと感じる。

令和5年12月ごろに出すという計画（案）は、いついつ統合するという計画なのか、今から計画を立てますよという計画なのか。また、パブリックコメントで初めて計画を知って意見を言おうとしても、その話はもう通じずに計画は策定されるのか、パブリックコメントで多くの意見があればまた検討するのか。学校がなくなるかもしれないことを、市民全員に周知するくらいでないか、たぶんこれは、玉野市の未来デザインだと思う。

玉野市はこれまで、本当に子どもに対して行き届いた教育をしてくれていると思う。なので、もうこうだからと決めてしまわず、学校の維持にとってもお金がかかるのは分かるが、玉野ブランドという作り方もあると思う。

もちろん教育の場と地域の場とを一緒くたにするには難しい壁があると思うが、もっと地域の方が学校に入り、小さな子どもの教育を地域の人が担うような、先生が少ないのであればその部分を地域の人が担っていくような学校づくりを考えるチャンスだと思う。なので、考える時間をあまりにも短くしてしまうと、私はもったいないと思う。みんなの声が上がってきて、玉野独自の教育の形みたいなものができるのであれば凄く良いと思う。もちろんできるか分からないし、言われたままのことになるのかも分からないが、そのための時間を少しもらえないかなと思う。

参加者 10：子どもたちをどう育ていくか。ぱっと見れば保護者、地域、応援団がいる。そういう方たちの思いも酌みながら、教育はいつ成果が出るか分からないし、目に見え

ない、数値化できない、そういう曖昧さがある。工場で物を作っているのではない。そういう何十年も先を見据えて教育環境を整える。アンケートや会議の回数、進め方の話があったが、私もやり方ばかり考えるのではなくて、あり方を考えなければならないと思う。

例えば、多くの人の意見を聞きたいのであれば、レクレーションで市長も同席して、PTAと連携して、コミュニティとも連携して、将来の学校像を説明しますよと、一斉に何回か開催することもできる。事務的作業が増えて、行政としては厄介だ。でもそれやらないと、納得して次に進まない。みなさん理解をというが、あり方をどう考えているか、市長の、教育長の姿勢も問われると思う。

それから、デメリットメリットの説明で、メリットの3番「様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる」と、デメリットの最後「多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい」は矛盾していないか。小規模校は様々な活動で個性を伸ばせるのに、デメリットに「様々な活動の機会がなく」となっている。これはおかしいと思う。また、小規模校のメリットに追加して「郷土愛を育みやすい」がある。大規模校よりも、地域の子どもは地域で育てるといふ思いが非常にダイレクトに伝わってくる。

大崎小学校は開校50周年を迎えた。ところが一度八浜小と一緒にになると、もう元には戻らないと思う。だからより慎重にやってほしい。

あと私が感じたのはネーミングだ。今は不適正なのかと感じてしまった。教育の目的は「子どもたちの人格の形成を目指す」だ。教育基本法に書かれてある。するとせめて「人格形成力向上配置」とか、「教育力向上配置」、「学力向上配置」、あるいはまとめて「学校力向上配置プラン」とか、そういうネーミングで進めてもらえたら、少し柔らかいのではないかと思った。

最後に、統合した場合、スクールバスの経費をトータルすると、学校を残した方が安いと聞いたことがある。であれば、例えば大崎小と八浜小、八浜小のプールが新しいのであれば、大崎の子を八浜小学校に連れて行って泳がせることもできる。そこで交流も生まれる。多様な人間関係もできるだろう。今でも修学旅行や海事研修は一緒に行っている。運動会、音楽会、記録会、そういう大きな行事は光南高校も交えて一緒にして、あとは少人数です。昔は少人数クラスを進めていたくらいで、学力をどう捉えるかにもよるが、九九を覚えるのであればマンツーマンのほうが良いのは分かっている。そういう場を増やすことをプランに加えて、学校は現状のまま残して、大きなところは交流させることも可能と思う。

参加者1：先ほどクラス替えで人間関係をリセットできると言われた。私も30年以上小学校に勤めたが、そんなことはない。教員にゆとりがあって、子どもたちの様子や話をよく見て、聞いて、指導力があれば1クラスでも人間関係は良くできるし、教員に力がなく余裕もなければ、2クラス、3クラスあってもいじめはなくなるし人間関係は良くならない。規模の問題ではないと思う。

それから、議論があってからのアンケートという意見にとっても賛成だが、今のように市民センターに置いているからどうぞではなくて、例えば広報たまのに折り込むとか、とにかくみんなの手にアンケートが届く工夫をしてほしい。

最後に質問だが、私はこれで3地区目に参加しているが、地区地区でこんなふう

に統合しますと言っていて、これは市全体で統合を考えているのか、違うのか。ものすごく学校の数が少なくなるがどうか。

教総課長：具体的な計画があるものではないので答えにくいですが、玉野市全体でどうしていくかを考えたいと思っている。

参加者3：他地域だが、スクールバスを利用するにあたって保護者に負担金がかかる場所がある。玉野市でも同じようなことになるか。

あと災害面だ。資料に土砂災害についての記述はない。大崎小学校は土砂災害のリスクはない。津波のリスクはあるが、川を越えた山側にはない。そこを登れば高台に上がることができる。その場合、少人数であれば避難がスムーズにできるのではないか。八浜小学校には土砂災害のリスクがある。3階にいた場合、津波と土砂災害、どちらの方が逃げる時間があるだろうか。子どもの足で3階から降りて、広いところまで逃げる。津波の場合、すぐに高台はない。大崎小学校の方が高台に逃げやすいし、土砂災害の危険性も低い。人数が少なければ少ないほど、教員が一人ひとりを見ることが出来る。35人を確認しながら逃げるのと、13人でみんな逃げるよというのと、子どもたちの命を守るうえでどちらの方が良いかを考えてほしいと思う。

教総課長：まずスクールバスについて。玉野市では、荘内小学校の児童が路線バスを利用して、定期代の8割を市が負担している。自己負担は2割をお願いしている。統合でスクールバスを走らせる場合には、確定ではないけれども、費用は行政が負担すべきと考えている。

津波と土砂災害については、その点で見れば言われるとおりに思う。

参加者3：私の子は発達障害の支援をしている場所に通っているが、これは本当にこの子のためなのやり方かなと疑問に思うところがあった。

また、その連絡として、保護者から保育園や小学校に言ってくださいとファイルを渡されたが、書いていることは当たり障りのないことで、注意点などについて書かれていなかった。そして、そのファイルを学校に渡しておしまいだった。

今の大崎小学校の校長先生は、それではだめだということで、新入生を見るために保育園に行って、一人ひとりのことを聞いて、どういう教育をすべきかを担任に話して、どうしても支援が必要な子に対しては中学校まで支援の流れを続けたいと言われた。これで児童が35人になったら先生の負担はどうなるのだろうと思う。

今は、保育園は保育園、小学校は小学校、中学校は中学校のように、プツプツと切れている感じがしたので、一つの線として見てもらえるような環境を作りやすいものにしてほしい。

学教課長：玉野市としては、就学前、小学校、中学校と途切れるのではなく、切れ目なく支援や指導をする教育を進めている。中学校区一貫教育として、特に小中がしっかり連携をして、更に就学前の園児、子どもたちについても、小学校に上がる前にそれぞれ個に応じて支援や指導ができるように取り組んでいる。

大崎小学校では、そういった取組を保護者にもしっかり話をされて理解いただいているのだと思う。

改めて、玉野市がそういう教育を大切にしていることが知られるように進めたいと思う。規模化を進めていく中でも、当然そこは大切にしていきたい。

参加者 7 私は大崎小に勤めていたので、大崎小も八浜小も残してほしい。学校は子どもにとっても、保護者にとっても、地域にとっても誇りだ。その誇りを人数にかかわらず残してほしい。

検討委員会の議事録が、ひと月以上経ったのにまだアップされない。この議事録も、一字一句残さず、一刻も早く出してほしい。

教総課長：検討委員会と地域説明会の日比地区については、内部的な手続きも終わったので明日ホームページ上で公開する。玉地区についても今週中にアップできると思う。ほかの会場は少々お時間をいただきたい。

一字一句残さずだと読みにくいものになる。要約はしているが、発言の趣旨が変わらないように十分に配慮しているのでご理解いただきたい。

参加者 3：提案だが、学校や就学前園は、参観日に時間を少しもらって話をしてはどうか。

参加者 2：今日の意見も検討委員会に伝わるか。

それから、少子化対策や、子育て世代を増やす施策について、玉野市の中で教育委員会の位置づけはどうなっているか。子どもを増やす、人口を増やす取組は日本全国どこもやっていると思う。子どもにたくさんお金をかけたところは人口が増えている。世界的にもそうだ。だから何かを削ってでも子どもにかけるべきと思う。そのあたりの教育委員会の立場、考え方を聞かせてほしい。

教総課長：いただいたご意見は議事録の形で公開するし、検討委員会の委員にも、次の会議の前に示して、それを踏まえた議論をいただきたいと考えている。

教育次長：玉野市としてだが、この適正規模化を含め、玉野市の財政や少子高齢化など、様々な問題が絡む問題だと思うので、何事も教育委員会で進めるのではなくて、玉野市全体で、トータルで考えていくべきと思う。

参加者 3：コロナの影響で教育を受けられない子どもがたくさんいる中、大崎小学校はかなり授業を受けることができた。運動会についても、短縮ではあるが1年生から6年生まで全員でできた。それによって保護者の負担は少なくなったし、これからもっと強い病気が出たときの教育を考えると、少人数もいいのではないのかなと思う。そういう観点も考えながら、いろいろな話を進めてほしい。

4 閉会